

あすの淡海

自然と人との共生をめざして

VOL.

50

2025 夏号

湖 (10-100万年以上にわたって存続している湖)

カスピ海



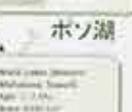
バイカル湖



ホソウミ



マリリ湖



マイ湖



長い歴史を反映して
多くの固有種が生息

Modified from Cristescu et al. 2010

すすめ!!びわっこ探検隊 始動



すすめ!!びわっこ探検隊 始動

～滋賀の子どもが原体験として四季折々の自然に触れる機会をつくる～

滋賀県は、びわ湖をはじめとする豊かな自然やその自然を人々が守り育ててきた歴史を有しており、環境について学ぶ教材に恵まれています。

自然の中で遊んだ原体験は、命や自然を大切にすることを育むことにつながりますので、四季を通して自然と関わることを望まれます。このような経験の積み重ねが探求心の向上や環境の変化に気づく力を養うこととなります。当財団では、これまで県からの受託で実施してきた「ラムサールびわっこ大使」事業などで培った経験を活かして滋賀の子どもたちが四季折々の自然に触れる機会を提供する新たな事業に取り組みます。

「すすめ!!びわっこ探検隊」のめざすもの

「びわっこ探検隊」の事業は、県内在住の小学4年生から中学2年生を対象に、四季折々のびわ湖をはじめとする滋賀の豊かな自然環境、自然と人の共生や文化などを学び体験できるよう、それぞれの季節に当財団ならではのプログラムを企画します。

とりわけ、事業の実施にあたっては、フィールドワークや現地で活動する様々な団体や人々の生の声から学ぶことに重点を置き、滋賀の自然環境や自然と人が共生することのすばらしさ、楽しさを参加者のみなさんに体感していただきます。

春季プログラムを実施しました

5月17日（土）に開催した春季プログラムでは、「琵琶湖のヨシを学び、遊ぶ」をテーマに掲げ、財団職員からヨシ原のはたらきなどについてお話した後、国立環境研究所 琵琶湖分室長の馬淵様から「琵琶湖に生息する魚類とヨシとの関係」などについてのお話をお聞きしました。また、淡海環境プラザにある研究室も見学させていただきました。

琵琶湖の水ヨシ帯は、コイやニゴロブナにとって大切な産卵や育成の場所であること、ヨシを含めて多様な自然環境があることによって、魚類の多様性も維持されるということを教えていただきました。研究者から直に琵琶湖と生き物について興味深いお話をお聞きすることができました。



その後、琵琶湖のヨシを肌で感じていただくため、ヨシを使った工作や、昔の人が開発した「編み機」を使った「すだれ編み」を体験してもらい、自然と人との共生やヨシと歩んできた文化についても学んでいただきました。

参加者からは「ヨシについて詳しく知ることができたし、研究室を見学できてとても楽しかった」「研究室での魚の保存方法が面白かった」「今回学習したことを友達にも教えてあげたい」などの感想をいただきました。

今後のプログラム

財団では、今後も魅力あるプログラムを提供しますので、みなさんぜひご参加ください。

【夏季プログラム 7月26日(土)】

びわ湖の岸辺でガサガサ体験!!

内容：生きもの採取、外来種の学習、漂着ゴミ清掃

講師：琵琶湖博物館学芸員

※申込方法等は6ページに記載

【秋季プログラム 10月18日(土)】

里山散策とネイチャーゲーム!!

内容：雪野山で森林散策とネイチャーゲーム、はんごう調理体験など

講師：雪野山の森・里山クラブ

【冬季プログラム 1月中旬ごろ】

ヨシ保全活動と水鳥観察!!

内容：ヨシ刈り体験、びわ湖の水鳥観察（予定）



各回で参加者を募集します。募集案内は財団HP等で順次公開します。
内容は現時点での予定ですので、予告なく内容を変更する場合があります。

この人に聞く



国立環境研究所 琵琶湖分室
分室長

まぶち こうじ
馬淵 浩司 さん

国立環境研究所 琵琶湖分室は、平成29年4月に「政府関係機関移転基本方針」により、大津市にある滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの建物内に設置されました。開設以来、琵琶湖のほとりに活動拠点を置いて、生態系や水質に関する調査・研究をされています。現在では、当財団の事務所がある淡海環境プラザにも実験・展示スペース(矢橋帰帆島ベース)を設置されています。

今回は開設当初から琵琶湖のコイ・フナ類の産卵生態について研究されている馬淵浩司さんに研究の合間にお時間をいただいております。

—琵琶湖との関わりや思いをお聞かせください。

馬淵さん 彦根市出身で琵琶湖は子どもの頃から生活圏の一部でした。本などから、歴史が古くて固有種もいる貴重な湖だと知っていましたが、そのすごさの実感は今ほどはなかったですね。自分が生活している彦根市以外の湖岸のこともあまり知りませんでした。

現在は琵琶湖全体が調査フィールドになり、ようやく全体像が見えてきています。琵琶湖分室の開設と研究員の募集が、大学での前職の任期が終わるタイミングであり、運命的なものも感じています。

—魚類の研究をはじめられたきっかけは何ですか。

馬淵さん 子どもの頃から魚を獲ったり観察したりするのが好きでしたが、中高生の頃に淡水魚の生態について研究者自身が研究現場を含めて解説した「琵琶湖とナマズ(友田淑郎著)」や「アユの話(宮地伝三郎著)」などの本に出会ったことが大きなきっかけの一つになりました。

実は大学院での最初の研究対象は海の魚で、スキューバ潜水で繁殖行動を研究するうちに、それまで1種類とされていたササノハベラという魚が実は2種を含むことが分かり、1種を新種記載しました。さらに、様々な魚種についてDNA解析に基づく系統学的研究をするうちに、琵琶湖の在来コイが世界的にも貴重な日本在来系統の生き残りであることを発見しました。この貴重なコイを守るために始めた産卵調査が今の研究につながっています。

—現在の研究内容について教えてください。

馬淵さん 在来コイ科魚類の産卵生態を研究しています。鮎寿司の材料になるニゴロブナなど食用となるコイ科魚類は昭和の終わり頃から激減していますが、産卵場所の減少が大きな原因の一つと考えられています。現在の産卵場所は湖岸のヨシ帯や河川や水路などですが、産みつけられた卵をDNA種判別することで、魚種ごとに好みの産卵場所が異なることがわかってきました。

また、バイオロギングによる研究から、産卵後に湖に戻った親魚の多くは、翌年もだいたい同じ場所に戻って産卵しているらしいこともわかってきています。ですから、湖岸各地の産卵場所を産卵環境の多様性にも注意しながら保全する必要があります。



ヨシ帯で産卵調査中の馬淵さん

—魚の生息からみた現在の琵琶湖の課題は何ですか。

馬淵さん 湖岸堤の建設や圃場整備により、ヨシ帯が減少したり水田に魚が入れなくなったりして、産卵場所が非常に少なくなっています。ですので、産卵場所の保全・回復が必要なのですが、面積に加えて環境の多様性も重要です。

現在人工的に造成されているヨシ帯はヨシだけが規則的に並んだ単調な空間なので、様々な産卵場所の好みがある魚たちにとっては良い環境とは言えません。波打ち際のヤナギなども含めて、できる限り多様な環境を最初から作るべきだと思っています。

—課題解決のため県民にどのようなことを期待しますか。

馬淵さん 滋賀県は、琵琶湖周辺をはじめとして身近なところで貴重な生き物が暮らしており、自然観察の機会に恵まれています。時期と場所さえ知っていれば、湖岸の足元でホンモロコが産卵している様子や、ニゴロブナやナマズが産卵のために田んぼへ上る様子も見られます。

県民の皆さまには、そのような様子を実際に見ていただき、生き物が身近な場所で懸命に生きていることを実感していただきたいです。その経験や感動は、生き物目線で琵琶湖とその流域の自然環境を考え、守っていく行動につながっていくと思います。

—財団に期待することは何ですか。

馬淵さん 財団の設立以来取り組まれているヨシ群落の保全に、私達の研究成果を活かして頂きたいですね。また、琵琶湖の生き物の暮らしを広く知ってもらうための学習会を開催していただき、私達と県民の皆さんをつなぐ機会を作っていただけるとありがたいです。

—今後、どのような研究に取り組まれますか。

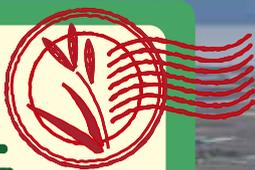
馬淵さん 滋賀県が推進している「魚のゆりかご水田※」の取り組みがもっと普及するよう、基礎的な研究を積み重ねていきたいと考えています。これまでの研究で、現在でも産卵遡上している水路の琵琶湖からの距離や標高の範囲が分かってきたので、魚道の設置場所などについて県に提案したいと思っています。

また、琵琶湖の沖合での魚の生活についても、もっと知りたいです。沖合でホンモロコがどんな暮らしをしているのか未解明ですし、スゴモロコの湖中での産卵はまだ誰も見たことがありません。知りたいことはたくさんありますが、滋賀県の環境保全に役立ち、地域社会に貢献できる研究をしていきたいですね。

※「魚のゆりかご水田」湖魚の産卵・成育の場としての環境を取り戻すため、水路に魚道を設置して湖魚が水田へ遡上できるようにするもの。(琵琶湖ハンドブック)

淡海 ヨシ紀行

～淡海の原風景を訪ねて



第5回 伊庭内湖(東近江市)前編

今から1億年前から6500年前、湖東地域には活発な火山活動によって巨大なカルデラがありました。現在の^{きぬがき}織山、安土山、八幡山などの山々はその名残で、湖東コールドロンと呼ばれています。これらの山々と愛知川に囲まれた広大なエリアには、かつて^{だいなが}大中の湖と^{こしょうなが}小中の湖(伊庭内湖、安土内湖、西の湖)がありました。

これらの内湖はどのようにしてできたのでしょうか。愛知川によって運ばれた土砂が河口付近に^{たいせき}堆積し、さらに琵琶湖の^{かんりゅう}還流で流された土砂が砂州を形成して琵琶湖の内湾をふさぎ、大中の湖が生まれます。大中の湖に面した伊庭、乙女浜、福堂、栗見新田、栗見出在家などの村々の湖岸は、湾や砂州が複雑に入り組み、ヨシが茂る大湿地になりました。

『能登川の歴史』別冊資料『明治の古地図－能登川－』には古い地籍図が掲載されており、当時の土地利用が色分けされています。地図の凡例には「田地」、「畑地」、「屋敷」、「道」、「川」などと並んで「葭」や「葭地」の区分があり、大中の湖の湖岸には大規模なヨシ群落広がっていた様子



伊庭内湖の全景(猪子山より)

が読み取れます。また、小字名として「浦葭」、「田葭」、「三反葭」、「池ツ葭」、「大葭」などの記載があり、それぞれのヨシ地の性質や広さなどを想像することができます。

昭和21年に着手された干拓事業で大中の湖が陸地化して現在の形になりましたが、このときに干拓されずに残された大中の湖の一部分を現在、伊庭内湖と呼んでいます。つまり、かつて小中の湖の一つであった伊庭内湖と現在の伊庭内湖は別の内湖だったのです。

鈴鹿山脈を源流とする愛知川の伏流水が湖東コールドロンの一部である織山などの周辺に湧き出し、伊庭の集落内に張り巡らされた水路を通過して伊庭内湖に流れ込んでいます。こうした伊庭内湖とヨシ群落、背後の山々、集落内を巡る水路などの景観が平成30年に「伊庭内湖の農村景観」として国の重要文化的景観に選定されています。集落の家々はカワヤホリと呼ばれる水路に面しており、その水を利用しやすいように石段で降りられるようになっています。この石段を地元ではダンダンと呼び、石段を含む施設はカワトと呼ばれます。

太古の昔から続くダイナミックな地形の変化と、そこに暮らす人々の生活が育んできた、いかにも水郷らしい風景が今も残されています。

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



丸山 秀美さん
大津市在住

今回は、明るい笑顔と繊細なまなざしを合わせ持ち、素は恥ずかしがり屋だけど思いのこもった語りで、誰かの気づきと行動を引き出してくれるこの方です。

結論から申し上げます!「地球温暖化ってジブンゴトなんです!」

専業主婦のお母さんだからこそ、世の中のため、子どものために何かしたい!「そうだ!推進員になろう!!」と活動を始めました。

大人になって学ぶことの楽しさを知り、老若男女がワクワク学べるお手伝いをしたいと、出前講座の講師や教材開発に取り組んでいます。

小学校ではフローティングスクール事前学習で「びわ湖のすごい!」を伝えています。先日、念願だった我が子にもこの授業を受けてもらえました。主婦(夫)の方には「食品ロス」を入口に、食

から始める「ストップ地球温暖化」についてお話ししています。

令和の米騒動、野菜の高騰しかり、地球温暖化は私たちの「食卓とお財布」に直結しています。だから今すぐ、一緒にストップ地球温暖化を始めませんか?



地域の研修会で講師を務める丸山さん

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、知事から委嘱され、温暖化防止にかかる普及啓発を行われています。

「おおつ花フェスタ 2025 春の緑化フェア」に出展しました

4月20日(日)、大津市の瀬田公園で開催された「おおつ花フェスタ2025 春の緑化フェア」に財団ブースを出展しました。

この日は、高島浄化センター内で販売している下水汚泥肥料(愛称：おうみっ肥)のPRや下水道の普及啓発等を行いました。「おうみっ肥」のサンプルに花の種を添えて無料配布したところ、10時の配布開始直後にはブース前に行列ができ、午後2時までに用意したサンプル約250個がすべてなくなりました。

また、来場のお子さんに財団のヨシネックレスづくりを楽しんでもらう間に、保護者の方に「うちエコ診断WEBサービス」(*)を体験いただきました。お子さんに大人気だったのはもちろん大人の方も「診断を受けたいらできるのなら私もやりたいわ」と、ヨシネックレスづくりを楽しまれました。



「うちエコ診断」とは

「うちエコ診断」を受診すると、光熱費やCO₂排出量が、おうちの「どこから」「どのくらい」排出されているのかが一目でわかります。また、どのような対策や行動をすれば家庭でのエネルギー消費を効果的に抑えられるかアドバイスを受けられます。

これまでにうちエコ診断を受診されたご家庭では、光熱費で1世帯あたり年間平均約6万円の節約効果があります。(うちエコ診断を受診した世帯の事後調査の結果より推計)

特に、※「うちエコ診断WEBサービス」は、スマホやご自宅のパソコンなどインターネット上で、いつでも「うちエコ診断」ができます。5分程度の簡単な診断が可能で、さらに、おうちの中で気になっているところを詳しく診断したり、省エネ家電に買換えた場合のシミュレーションを行ったりすることができます。まずはお試しください!



◆◆◆「うちエコ診断WEBサービス」受診者募集キャンペーン中!◆◆◆

滋賀県と滋賀県地球温暖化防止活動推進センターでは、「うちエコ推進WEBサービス」を利用のうえ応募された先着400名様にエコグッズがもらえる、しが「うちエコ診断WEBサービス」キャンペーン2025を実施中です! →の二次元コードから詳細をご確認のうえ応募ください。



地球温暖化防止「デコ活」ポスターコンクールを実施します

—(買・食)(住)にまつわるデコ活を考えよう!—

滋賀県地球温暖化防止活動推進センターでは、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称である『デコ活』の取組を広めるため、県内の学生を対象に地球温暖化防止「デコ活」の啓発ポスターを募集し、入賞作品の表彰・展示を行います。

2050年CO₂ネットゼロ実現のために暮らしの中のできる「デコ活」の取組みや、地球温暖化防止のために日頃から心がけていることをポスターに表現してください。

■応募締切 **令和7年9月12日(金)**
17時15分必着(両部門共通)

■募集内容 アナログ(紙)ポスター部門
デジタルポスター部門

■賞
最優秀賞 1点 …………… ¥10,000相当
特別賞 3点程度 …………… ¥5,000相当
優秀賞 10点程度 …………… ¥3,000相当

主催 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター (公益財団 淡海環境保全財団)
共催 滋賀県
協賛 京セラ株式会社・東京センチュリー株式会社・京セラTCL合同会社



カレンダー作成



令和6度最優秀賞
滋賀県知事賞 受賞作品

■デコ活とは

CO₂(二酸化炭素)を減らす取組み「脱炭素(デカーボナイズーション)」と環境に良い「エコ」である“活動”を組み合わせた言葉で、地球温暖化防止のための新しい国民運動の愛称です。

一人ひとりの行動が未来の地球をつくれます!



詳細は財団ホームページをご覧ください。

令和7年度 スマート・ライフスタイル普及促進事業補助金 申請受付中

補助金の対象事業を拡充しました!この機会にお家をスマート化しませんか



太陽光発電システムの導入や断熱改修により、快適で家計にやさしく、地球にもやさしい暮らしの脱炭素を始めましょう!

申請締切 令和8年2月13日(金) (予算がなくなり次第終了)

補助の対象設備 ※原則、個人用既存住宅が対象で、同一対象設備の更新は対象外です。

太陽光発電システム、蓄電池、高効率給湯器、断熱改修(壁・窓等、窓のみ)、太陽熱利用システム、V2H、高効率空調設備、高機能換気設備、高効率照明機器

次世代自動車普及促進事業補助金も申請受付中です。

光熱費高騰の今! 省エネ住宅でこんなにお得!



補助制度の詳細、申請様式は当財団ホームページ「補助金」よりご覧ください。
<https://www.ohmi.or.jp/ondanka/subsidy/>

「すすめ!!びわっこ探検隊」夏季プログラムの参加者を募集します

びわ湖の岸辺で、ガサガサ探検!琵琶湖博物館の学芸員さんと一緒に、自然や生き物とふれあいながら外来種やゴミ問題についても学び、びわ湖の“今”を体感しよう!

- 日時** 令和7年7月26日(土) 9:00~12:00
- 場所** 琵琶湖博物館および周辺の湖岸
- 内容** 生き物採取、外来種に関する学習、漂着ゴミ清掃 (講師:琵琶湖博物館学芸員)
- 対象** 滋賀県内在住の小学4年生から中学2年生
- 定員** 15名 ※応募者多数の場合は先着順
- 参加料** 500円(保険料)
- 申込締切** 令和7年7月18日(金) 17:00
- 申込先** 公益財団法人淡海環境保全財団
- 申込方法** メール、電話、FAX (下記 財団連絡先) 詳細は財団のホームページをご覧ください。



編集後記

今号の「この人に聞く」でお話を伺った国立環境研究所 琵琶湖分室長の馬淵さんは、「魚が本来棲みたい環境」を意識して研究されているとのことでした。馬淵さんのお話を聞き、放置していると陸化してしまう琵琶湖岸に対してヨシやナガの管理など適切な保全を行い、自然の“よい状態”を見極めながら事業に取り組むことの大切さを、改めて実感しました。

あすの淡海 VOL.50 | 2025 夏号 (年4回発行)

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団
 〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地
 TEL: 077-569-5301
 FAX: 077-569-5304
 E-mail: info@ohmi.or.jp

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
 TEL: 077-569-5301 FAX: 077-569-5304
 E-mail: ondanka@ohmi.or.jp

淡海環境プラザ
 TEL: 077-569-5306 FAX: 077-569-5334
 E-mail: plaza@ohmi.or.jp

読者アンケート

今後のより良い情報発信のため、QRコードからアンケートにご回答ください。いただいた内容は、今後の企画や改善に活用させていただきます。



- 用紙: 責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷